関空島 WEATHER REPORT

3月号
2022年

ご利用の前に
関空島 WEATHER REPORT（かんくうじまウェザーレポート）の内容には、航空気象で利用する用語や、観測で使用する機器及びその設置場所等の略語がでてきます。これらの解説を巻末に掲載していますので適宜ご利用ください。

関空島の2月の気象

天気概況

上旬及び中旬の後半から下旬の前半にかけては、冬型の気圧配置となることが多く、晴れた日が多くなりました。中旬の前半と下旬の後半は、天気は数日の周期で変わりました。

上旬：冬型の気圧配置となる日が多く、晴れの日が多くなりました。

中旬：天気は数日の周期で変わりました。期間の中頃と終わりには低気圧が通過した影響で雨となった日がありました。　低気圧の通過後は強い寒気の影響で、雪が降る日がありました。

下旬：期間の前半は冬型の気圧配置となる日が多く、また期間の後半は高気圧に覆われて、晴れた日が多くなりました。

特徴的な日

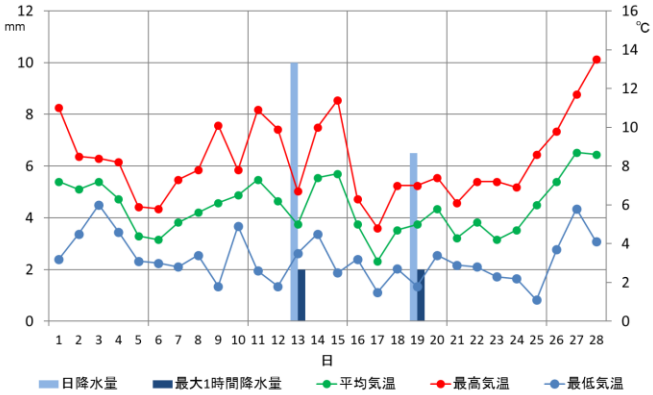
5日は冬型の気圧配置が強まり、最大風速31ktの西北西の風、最大瞬間風速37ktの西北西の風を観測しました。

17日は冬型の気圧配置が強まり降雪となった影響で、VISが2400mまで悪化し、CIGが900ftまで低下しました。また、最大風速31ktの西北西の風、最大瞬間風速39ktの西北西の風を観測しました。

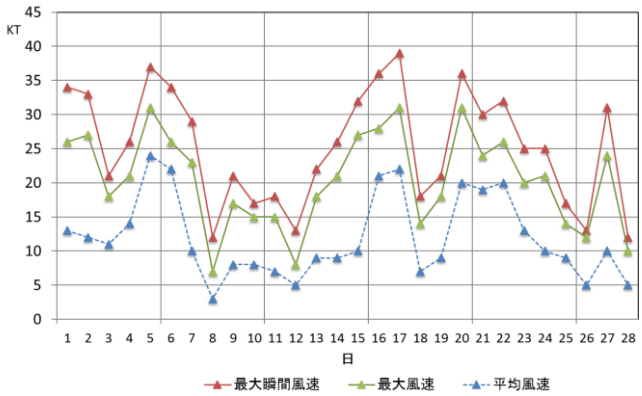
19日から20日にかけては日本の南海上を低気圧が東進した影響で雨が降り、19日はVISが2400mまで悪化し、CIGが900ftまで低下しました。20日はCIGが1000ftまで低下しました。また、最大風速31ktの西北西の風、最大瞬間風速36ktの西北西の風を観測しました。

《気温》月平均気温は5.9℃（平年6.9℃、2月の低い方から4位を更新、通年でも9位を更新）でした。日最高気温は、28日が最も高く13.5℃を観測しました。日最低気温は、25日が最も低く1.1℃を観測しました。（第1図）。

《降水量》月降水量は16.5mm（平年58.1mm、2月の少ない方から1を位更新、通年でも9位を更新）でした。日降水量の最大は13日に10.0mmを観測しました。1時間降水量の最大は13日と19日に2.0mmを観測しました。10分間降水量の最大は19日に1.0mmを観測しました（第1図）。



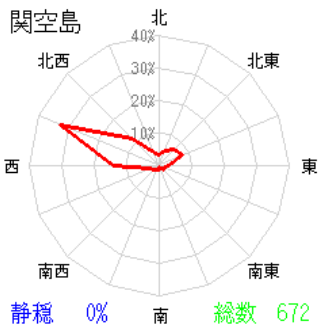
第 1 図　2022 年 2 月の日別気温・降水量



第 2 図　2022 年 2 月の日別風速

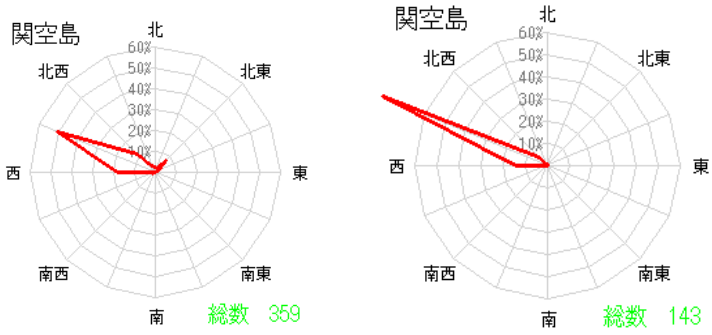
《風》日最大風速が 15kt 以上の日数が 22 日、そのうち 20kt 以上の日数が 16 日でした。日最大風速の最大は 5 日、17 日及び 20 日の西北西の風 31kt、日最大瞬間風速の最大は 17 日の西北西の風 39kt でした（第 2 図）。

〈風配図〉10 分間平均風向風速を 1 時間毎に風向及び風速別で集計し、各方位の頻度を表した図です。月全体では西北西の風が多くなっています（第 3 図）。風速階級別では、5m/s 以上（約 10kt 以上）及び 10m/s 以上（約 20kt 以上）ともに西北西の風を多く観測しています（第 4 図）。



(0m/s 以上)

第 3 図　2 月の風配図



（5m/s 以上）　（10m/s 以上）

第 4 図　2 月の風速階級別風配図

〈極値・順位値の更新〉2 月の極値と順位値の更新状況を第 1 表に、通年の順位値の更新状況を第 2 表に示します。表において、橙色のセルが今月の順位値を更新した記録、桃色のセルが通年の順位値を更新した記録です。

第 1 表　関空島の 2 月の極値

要素名／順位	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
月降水量の少ない方から (mm)	16.5 (2022/2)	17.0 (2015/2)	29.5 (2021/2)	32.0 (2017/2)	35.5 (2018/2)	39.0 (2008/2)	42.0 (2007/2)	48.0 (2005/2)	48.5 (2014/2)	53.0 (2019/2)
月平均気温の低い方から (℃)	5.3 (2012/2)	5.3 (2008/2)	5.4 (2018/2)	5.9 (2022/2)	5.9 (2014/2)	6.0 (2013/2)	6.3 (2006/2)	6.3 (2005/2)	6.3 (2003/2)	6.8 (2017/2)

統計期間：2003 年 2 月から。

第２表　関空島の通年の極値

要素名／順位	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
月降水量の少ない方から	0.5	1.5	2	8.5	8.5	11	12	13	16.5	16.5
(mm)	(2020/8)	(2011/1)	(2005/1)	(2019/11)	(2012/8)	(2011/12)	(2007/1)	(2004/1)	(2022/2)	(2022/1)
月平均気温の低い方から	5.0	5.3	5.3	5.4	5.6	5.6	5.6	5.8	5.9	5.9
(℃)	(2011/1)	(2012/2)	(2008/2)	(2018/2)	(2018/1)	(2006/1)	(2003/1)	(2013/1)	(2022/2)	(2014/2)

統計期間：2003 年 1 月から。

なお、本レポートの文中及び極値表に用いている値は、特に断りがない限りアメダスによる統計処理を行った資料に基づき作成したものです。

――　事務局からのお知らせ　――

＜関空島ウェザーレポートについて＞

「関空島ウェザーレポート」についてのご意見・ご要望は、担当（福田）のメールアドレス h-fukuda@met.kishou.go.jp まで、メールにてお願いします。

発行日：2022 年 3 月 28 日
発行元：関西航空地方気象台
編　集：航空気象懇談会事務局

関空島 WEATHER REPORT で使用する航空気象に関する用語の解説

1　気象観測施設の配置とデータ利用について

気象観測施設は、関空島の A-RWY（3500m）と B-RWY（4000m）周辺に配置した屋外観測装置と、当台気象観測室（航空庁舎ペントハウス）に設置した気象観測報の作成、配信等の処理を行う屋内観測装置で構成する。

屋外観測装置からのデータは屋内観測装置に表示し、METAR-AUTO 報として 10 分毎に自動配信するとともに、屋上で行う目視による観測とあわせて航空観測気象報(METAR 報、SPECI 報)で配信する。

また、日本時間の 23 時 00 分～翌日 05 時 59 分の間は、全要素とも自動観測・自動判別結果を用いた METAR/SPECI 報（以下「自動 METAR/SPECI 報」という。）を通報する。自動 METAR/SPECI 報で通報する視程や雲、現在天気は目視観測とは異なる特性・特徴を持っている。

航空観測気象報で通報する風は「06L」の観測値である。障害等で「06L」が使用できない時は「06R、24R、24L」の順に代用して通報し、RMK に使用した風向風速計名を記載する。（例：WIND BY EQPT/06R）

2　本文中で使用する語句の定義等

VIS：全周を見渡して半分またはそれ以上の範囲で共通した視程（卓越視程）を（m）で表す。なお、自動通報時間帯については、RWY06L の滑走路視距離観測装置で自動観測した値である。

CIG：雲量が 5/8 以上の雲層のうち、一番低い雲層の雲底の高さを（ft）で表す。

RVR：滑走路視距離観測装置で観測した滑走路視距離を（m）で表す。

風：RWY06L に設置した観測装置の値（関西国際空港の代表風）を、風向を真方位（°）で風速を（kt）で表す。

風配図は、RWY 06L の、正時から 1 時間毎の 10 分間平均風を、月毎の風向別に百分率で表す。

Calm（静穏）は、10 分間平均風速の値が 0.4kt（0.2m/s）以下の場合をいう。

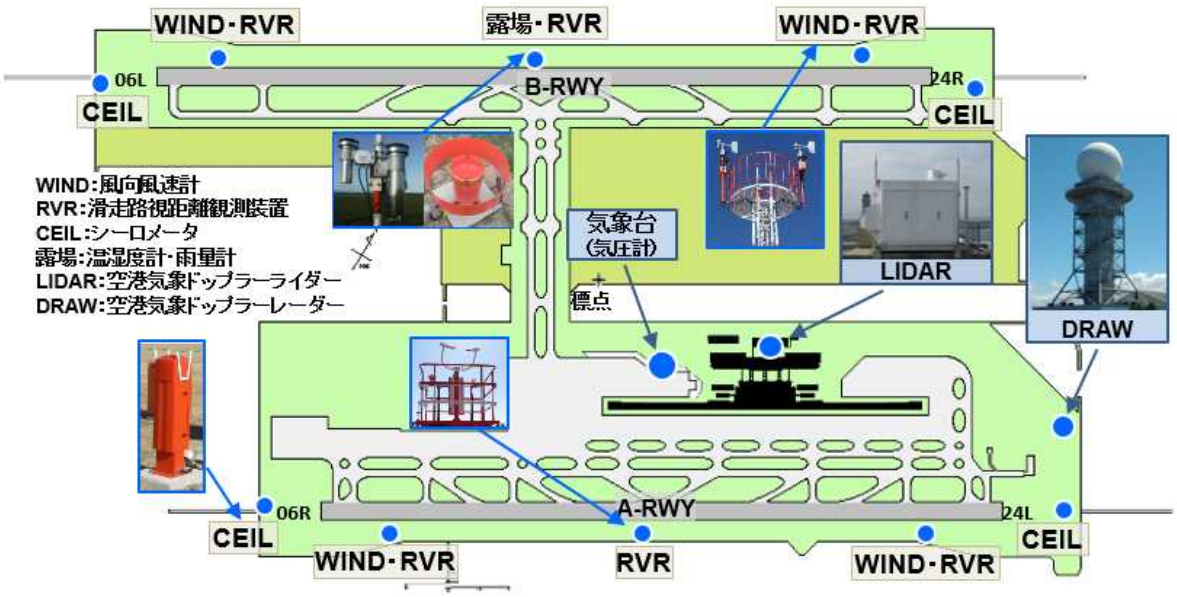
ガストは、平均風速を 10kt 以上上回る最大瞬間風速があった場合に報じられる。

ウィンドシアー：鉛直方向又は水平方向の風速や風向の差をいう。ウィンドシアーのうち、観測された高度が 1600ft 以下（もしくは 1600ftをまたぐ高度）の場合は低層ウィンドシアーとする。

平年値：アメダスの関空島地域気象観測所として算出した平年値を使用している。

関空島の統計期間は、2003-2020 年

（ただし、日最大 10 分間降水量及び日最大瞬間風速は 2009 年から）。



関空島内の気象観測機器配置状況

2021.9.1　関空島 Weather Report 編集部